

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット1階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果確定日	平成25年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajgokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvoCd=4270104351-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成25年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く交通の便の良い住宅街に立地し、周辺の川沿いは入居者の皆様の散歩コースとして、自治会の方々が整備して下さっている花壇や川に水鳥を観ながら散歩を楽しまれています。主治医との連携により24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援しています。季節毎の行事、花見ドライブ等、外出の支援に力を入れています。経営者が割烹をしていた経験から特に食事に関しては、栄養管理と調理、盛り付け、食器使用(ご本人の使用されていた食器を用いる等)にも心配りをし、食事が楽しみなものとなるよう努めています。入居者の皆様のこれまでの生活習慣や個性を尊重した介護に努め、食事の支度や洗濯物たたみ等、お一人おひとりの力を活かしながら参加され、助け合い楽しく笑顔で暮らして頂けるよう、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者が散歩すると地域の皆さんから声をかけられ、施設への訪問も気軽に行える等、開かれた施設である。また、経営者や職員の皆さんも利用者に優しいだけでなく、施設内外の研修やマニュアル作りにも積極的に取り組んでいる。
 ・経営者は、職員や家族からの色々な要望(金魚や花を植えるなど)に積極的に対応している。また主治医と連携し、住み慣れた施設で人生の最後を迎えられた方もおり「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき入所者の方々が安心して過ごせる環境を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝理念を唱和し、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づいて日々の介護に当たっています。またホームの行事の時は、ご入居者・ご家族・職員全員で理念を唱和しています。	業務の始まりの際、職員間で理念を唱和し、ホーム内での行事の時に参加者全員で理念の唱和を行っている。家族の一員として生活をしていく場づくりをふまえた理念を現場で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の保育園とは毎月交流会を行っています。散歩時にはご近所の方たちと挨拶や会話を交わし、運営推進会議時には自治会長様から地域の情報を頂き、交流を図っています。	毎月保育園児の訪問あり。地域やホームの行事にもお互いの参加がある。散歩中も声かけがあり昔の馴染みの地域での友人も自由に出入りができる環境を整えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、ご入居者の日々の暮らしの様子や、ホームで行っている研修内容の発表を行い、理解を深めて頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご入居者の行事の時の様子や、生活の様子等を報告し、また評価結果と取り組み状況について報告と話し合いを行い、出席の皆様のご意見をサービス向上に活かすように努めています。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催あり。参加者の自治会長から介護の参考になるDVDや、新聞記事の提供がある。お互いに気軽に情報を交換する場になっており、サービス向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市町村担当者へ事業所の実情や取り組みを伝え、普段からケアサービスのことや運営のこと、手続きのこと等、分からないことは常に相談をしています。	すこやか支援課や地域包括支援センター職員が定期的に運営推進会議に参加している。職員も市町村担当者に成年後見制度やその他介護の相談を積極的に行い、協力関係を深める環境を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての社内研修を行い、適切な見守りや介護により、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムを設置して見守りを行っています。	身体拘束について研修を行い、マニュアルも作成している。センサーマットを使用しているが転倒防止が目的であることを、入所者と家族に説明し、ケアプランに挙げている。無断外出を防ぐため玄関の戸を開けるとチャイムが鳴り、職員は見守り中心に、拘束なく安全を確認している	居住スペースの確保のために、壁側にベッドをつけて設置、さらに立ち上がり補助のためにペット柵がとりつけてある。利用者・家族からの聞き取りを行い、リスクが少なければ、ベッドの配置やペット柵の見直しをおこない、さらに抑制の少ない環境整備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員研修を行い、言葉遣いに注意するとともに、事業所内で虐待が起こらないように防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修の受講や社内研修を行い、個々の必要性については地域包括支援センター等の関係者と相談して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書等に記載し入居時に説明、不明点の確認を行い契約しています。改定についてもご家族に事前連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や隔月の家族会で意見交換できる場を設け、ご家族の思いや要望をお聴きして運営に反映できるよう努めています。また玄関にも意見箱を設置して呼び掛けしています。	家族との面会時や運営推進会議後の家族会の場で、苦情・要望を聞き取った際は、表にまとめ、職員で共有し、運営に反映できる環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回各ユニット職員全員参加で「ユニット会」を開催し、介護や職場の問題提議・話し合い・解決の場を設けています。また、ホーム運営に関しては、必要時に「全体会」を開催し、運営者と職員の意見交換の場を設けています。	ユニット会議や、全体会に、運営者が参加し、職員が話しやすい環境をつくっている。職員の意見から、金魚を飼育したり花壇を設置するなど、生活に密着した環境整備にも積極的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の「職務要件」を定め、経験年数・資格・仕事ぶりに応じ給与または賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔月に1回社内研修会を開催し、またグループホーム連絡協議会で開催される研修会等へは積極的に参加し、職員の資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修や意見交換会に参加し、各事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居後も、ご本人の困りごとや要望等を聞くとともに、ホームでの生活について不安に感じていることがあれば安心して頂けるように説明や声かけを行い、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時、また入居後しばらくは特にこまめにご家族と連絡を取り合い、不安や要望等をお聴きしながら、説明や話し合い等を行い、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後の面談や生活の中でご本人とご家族の意向を聴き、必要な支援が行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力に応じて、炊事・洗濯・園芸・裁縫等、出来る事には職員と一緒に参加して頂き、暮らしを共にする物同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時や毎月のお便り等でご入居者の日頃の様子や体調の変化を報告し、必要に応じて話し合いの場を持ち、ご本人とご家族との絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人、親戚、ご近所の方等の面会を歓迎し、自宅や墓参り等の外出を支援し、これまでの関係が継続できるよう支援に努めています。	家族や友人の面会や外出、電話の取次ぎも気軽におこなえるよう支援している。面会がない家族には職員から連絡をおこない、面会をお願いするなどの支援をおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が集える場所を作り、良い関係が築けるよう支援に努めており、ご入居者同士が声を掛け合い、励まし合って生活しておられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、病院への面会や様子伺い等を行い、またご家族からの相談にはいつでも応じられるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ご入居者毎に作成している「かわびら通信」の中に思いや願いを記入する欄を設け、職員が意向を把握すると共に、ご家族にもお伝えし、帰宅や外食の希望等は、ご家族の協力も頂きながら支援しています。	アセスメント時に利用者とその家族に希望や意向を聞き取り、入居後は日常会話の中から日々変化する希望を聞き取るよう心がけ、また家族にはサービス担当者会議や面会時に聞き取りをおこない、ユニット会議で職員全体に周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聴き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聴いて、これまでの生活歴や生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や生活の様子、職員間の申し送りや医療との連携の中で、お一人おひとりの過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人の意向を確認した上でユニット職員全員参加のケアカンファレンスで話し合い、サービス担当者会議でご家族の意向を聴いて介護計画を作成しています。	ケアチェック表をもとにユニット会議において全職員で意見交換し、状況の変化を見ながら利用者の願いや困っていることを反映するケアプランを作成し、見直しもを行っている。家族には面会時やサービス担当者会議で意向を聞き、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録は介護計画に沿った記録をして職員間で情報を共有し、また実践結果をチェック表に記入して見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者と一緒に花や野菜を育てて収穫したり、ご本人・ご家族の意向に応じて、病院受診やリハビリ通院の支援、お灸等の要望の受け入れ等を柔軟に行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時に花を觀たり川の流れや鴨を見つけたり、近所の店での買い物、また近隣の保育園との交流会等、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは週1回の往診に限らず日頃からご入居者の体調を相談し、必要時には他の医療機関を紹介して頂いたり、24時間連絡体制を確保して、適切な医療を受けられるよう支援しています。	事業所の協力医(内科)が24時間体制であることから、家族が安心出来るようにしてほしいとの希望と同意のもと支援を行っている。そのほかの科については、希望があればそれまで通っていた医療機関への受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が来所して体調の観察を行い、職員はご入居者の体調の変化や気づきを伝えて相談し、ご入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は口頭やサマリー等で事業所と病院との情報交換を行い、ご入居者が入院中や退院後の生活で困らないように、また早期に退院できるように情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人やご家族の意向を聴き、事業所でできることを十分に説明し、主治医と連携しながら支援に取り組んでいます。	入所時に看取りについて説明し、利用者とその家族の意向を聞き、同意を得ている。主治医の協力のもと、安心して最後の時が迎えられるよう支援を行っている。	看取りの経験を活かしマニュアルの作成と見直しを行うことにより、個々のノウハウをホーム内で共有し、よりよい支援へステップアップするよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての社内研修や消防署の指導の下での訓練、また主治医から対応の指導を受ける等して実践力を身に付けるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防署立会いの訓練の他に月1回の消防訓練(昼夜の設定)で状況に応じた避難方法や経路を判断する訓練を行い、運営推進会議等で地域の方へも協力をお願いします。	消防署立ち会いのもと、年に一度、また毎月一度は事業所全体で避難訓練を行っている。災害時の避難場所として事業所を開放しており、食料や毛布など備品を揃え、毎月備品の電池などの点検交換もおこなって、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の考えは否定せずに受け止め、相手を敬う言葉遣いで、トイレの声掛けはさりげなくする等、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めています。	接遇の研修を行い、利用者への尊重とプライバシーの確保を徹底している。利用者にはその時々で言葉遣いは臨機応変に対応し使い分けているが、職員間でお互い注意し合い、またユニット会でも意見交換を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面毎にお一人おひとりの思いや希望を聞いて、自分で決めたり選んだりできるように働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、その方のペースに合わせて過ごして頂けるよう、声掛けをしながら希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服を選んで頂いたり、美容師さんに来て頂いて髪を切ったり、希望に応じてパーマや毛染めに行けるようにする等、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切る、味付け、盛り付け、配膳、食器洗い等、ご入居者の有する力に応じて職員と一緒に準備や食事、片付けをして、食事が楽しみなものになるよう支援しています。	アセスメントや日常の会話から、ひとりひとりの好みを把握し献立が作られている。盛りつけや皮むき、お盆拭きなどを利用者と共にやっている。楽しく食事が出来るよう職員も一緒にテーブルを囲み音楽をかけるなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の状態に合わせた食事を提供し必要な声かけや介助を行い、栄養面で主治医に相談をしています。夜間も居室に白湯やアクリアスを用意し、水分摂取の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけやご本人の状態に応じた介助を行い、定期的に歯科受診をして点検と掃除を行えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの力や排泄パターンに応じ、トイレの声かけや介助を行っています。ペーパーが取り難い方には1回分ずつ折って用意しておく等、排泄の自立に向けて支援を行っています。	ひとりひとりの排泄リズムに応じて声かけを行い、パットや紙パンツを使用している利用者にもトイレで排泄出来るよう支援を行っている。失禁時には周りに気づかれないよう自室で着替えを行うなど、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分をきちんと摂って頂き、好みでヨーグルトやヤクルトをとれるようにしています。また運動や歩行を行うことなるべく下剤に頼らないように予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調に応じて入浴の回数を調節したり、夏場は入浴日以外にも入浴できるようにしています。一人で入浴できる方は声かけで、他の方は出来ないところを介助して個々にそった支援をしています。	入浴の出来る決められた曜日の中から選んでもらい、週二回の入浴支援を行っている。選んだ曜日以外での入浴の希望があった場合には入浴可能な日の最後に入浴出来るように支援している。また、夏場のシャワー浴は自立で入浴できる方の希望があれば、毎日入浴できるよう支援している。	利用者の希望に合わせた時間や曜日の対応を可能にするための、入浴支援への取り組みを次のステップに向け期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具の調節を行い、眠れない方にはホットミルクを出してお話を聴く等して、安眠の支援を行っています。冬場はホットカーペット、夏場はすだれを使用して快適な環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の使用している薬を理解し、症状の変化に応じて主治医と相談し、薬の調整をして頂いています。錠剤・散剤・苦味等、ご本人の意向に応じて主治医に相談し、きちんと服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好みや生活歴に応じて炊事や生け花、裁縫、唄や踊り、詩吟、カラオケ、散歩やドライブ等の役割や気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日はホーム周辺の散歩に出掛けています。ぶどう狩りや紅葉狩り等季節ごとのドライブや外食に行ったり、ご家族の協力を得て墓参りやお寺参り、好きな物を食べるに行ったり、買い物等に出かけられるよう支援しています。	天候のよい日は、個別対応での散歩や買い物など外へ出かけるよう心がけて支援を行っている。また外食やドライブなど、家族にも参加を呼びかけてホームの行事として出かけた、家族の協力でお墓参りや通院など、利用者の希望に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの希望や力に応じてお金を使えるように、買い物時の支払いを自分でして頂く等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置しており、家族や大切な人に電話をかけたい時にかけられるよう必要な支援を行っています。毎年年賀状を書ける方には書いて頂くよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を設置してご入居者が快適に過ごせるよう調節し、季節感が感じられるように季節の花や歌詞を飾ったり、七夕やお雛様、鯉のぼり等の季節の飾り付けをして、居心地良く過ごして頂けるよう支援しています。	フロアに季節の花や飾り付けをして雰囲気作りをしている。また、玄関横に日光浴ができる空間を作り、花を見たり風景を楽しめるような工夫をしている。臭いにも清浄機や換気を行い居心地のよい空間作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でテレビを観たり他の入居者の方と談話したり、玄関先のベンチで外を眺めたりして、思い思いに過ごして頂けるような居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、居室の家具や寝具は使い慣れたものを置いて頂き、仏壇等も希望により置かれてお参りされています。ご家族の写真を貼る等、居心地良く過ごせるように支援しています。	利用者が少しでも使い慣れた物を使用できるよう、日常会話の中からも聞き取りながら馴染みの物を持ってきてもらっている。ぬいぐるみや家族の写真などを飾ったり、位牌を持ってくるなど落ちついた生活が送れるようにしている。また、使い慣れた家具の持ち込みにも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下に手すりを設置し、通路は歩行に妨げの無いよう整備しています。「便所」の表示や居室の表札等、分かりやすく、自立した生活が送れるように支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット2階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果確定日	平成25年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=4270104351-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成25年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く交通の便の良い住宅街に立地し、周辺の川沿いは入居者の皆様の散歩コースとして、自治会の方々が整備して下さっている花壇や川にいる水鳥を観ながら散歩を楽しまれています。主治医との連携により24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援しています。季節毎の行事、花見ドライブ等、外出の支援に力を入れています。経営者が割烹をしていた経験から特に食事に関しては、栄養管理と調理、盛り付け、食器使用(ご本人の使用されていた食器を用いる等)にも心配りをし、食事が楽しみなものとなるよう努めています。入居者の皆様のこれまでの生活習慣や個性を尊重した介護に努め、食事の支度や洗濯物たたみ等、お一人おひとりの力を活かしながら参加され、助け合い楽しく笑顔で暮らして頂けるよう、「心穏やかな暮らしつまでも」の理念に基づき支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝理念を唱和し、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づいて日々の介護に当たっています。またホームの行事の時は、ご入居者・ご家族・職員全員で理念を唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園とは毎月交流会を行っています。散歩時にはご近所の方たちと挨拶や会話を交わし、運営推進会議時には自治会長様から地域の情報を頂き、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、ご入居者の日々の暮らしの様子や、ホームで行っている研修内容の発表を行い、理解を深めて頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご入居者の行事の時の様子や、生活の様子等を報告し、また評価結果と取り組み状況について報告と話し合いを行い、出席の皆様のご意見をサービス向上に活かすように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市町村担当者へ事業所の実情や取り組みを伝え、普段からケアサービスのことや運営のこと、手続きのこと等、分からないことは常に相談をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての社内研修を行い、適切な見守りや介護により、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムを設置して見守りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員研修を行い、言葉遣いに注意するとともに、事業所内で虐待が起こらないように防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修の受講や社内研修を行い、個々の必要性については地域包括支援センター等の関係者と相談して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書等に記載し入居時に説明、不明点の確認を行い契約しています。改定についてもご家族に事前連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や隔月の家族会で意見交換できる場を設け、ご家族の思いや要望をお聴きして運営に反映できるよう努めています。また玄関にも意見箱を設置して呼び掛けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回各ユニット職員全員参加で「ユニット会」を開催し、介護や職場の問題提議・話し合い・解決の場を設けています。また、ホーム運営に関しては、必要時に「全体会」を開催し、運営者と職員の意見交換の場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の「職務要件」を定め、経験年数・資格・仕事ぶりに応じ給与または賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔月に1回社内研修会を開催し、またグループホーム連絡協議会で開催される研修会等へは積極的に参加し、職員の資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修や意見交換会に参加し、各事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居後も、ご本人の困りごとや要望等を聞くとともに、ホームでの生活について不安に感じていることがあれば安心して頂けるように説明や声かけを行い、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時、また入居後しばらくは特にこまめにご家族と連絡を取り合い、不安や要望等をお聴きしながら、説明や話し合い等を行い、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後の面談や生活の中でご本人とご家族の意向を聴き、必要な支援が行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力に応じて、炊事・洗濯・園芸・裁縫等、出来る事には職員と一緒に参加して頂き、暮らしを共にする物同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時や毎月のお便り等でご入居者の日頃の様子や体調の変化を報告し、必要に応じて話し合いの場を持ち、ご本人とご家族との絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係作りにも努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人、親戚、ご近所の方等の面会を歓迎し、自宅や墓参り等の外出を支援し、これまでの関係が継続できるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が集える場所を作り、良い関係が築けるよう支援に努めており、ご入居者同士が声を掛け合い、励まし合って生活しておられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、病院への面会や様子伺い等を行い、またご家族からの相談にはいつでも応じられるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ご入居者毎に作成している「かわびら通信」の中に思いや願いを記入する欄を設け、職員が意向を把握すると共に、ご家族にもお伝えし、帰宅や外食の希望等は、ご家族の協力も頂きながら支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聴き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聴いて、これまでの生活歴や生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や生活の様子、職員間の申し送りや医療との連携の中で、お一人おひとりの過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人の意向を確認した上でユニット職員全員参加のケアカンファレンスで話し合い、サービス担当者会議でご家族の意向を聴いて介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録は介護計画に沿った記録をして職員間で情報を共有し、また実践結果をチェック表に記入して見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者と一緒に花や野菜を育てて収穫したり、ご本人・ご家族の意向に応じて、病院受診やリハビリ通院の支援、お灸等の要望の受け入れ等を柔軟に行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時に花を觀たり川の流れや鴨を見つけたり、近所の店での買い物、また近隣の保育園との交流会等、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは週1回の往診に限らず日頃からご入居者の体調を相談し、必要時には他の医療機関を紹介して頂いたり、24時間連絡体制を確保して、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が来所して体調の観察を行い、職員はご入居者の体調の変化や気づきを伝えて相談し、ご入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は口頭やサマリー等で事業所と病院との情報交換を行い、ご入居者が入院中や退院後の生活で困らないように、また早期に退院できるように情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人やご家族の意向を聴き、事業所でできることを十分に説明し、主治医と連携しながら支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての社内研修や消防署の指導の下での訓練、また主治医から対応の指導を受ける等して実践力を身に付けるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防署立会いの訓練の他に月1回の消防訓練(昼夜の設定)で状況に応じた避難方法や経路を判断する訓練を行い、運営推進会議等で地域の方へも協力をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の考えは否定せずに受け止め、相手を敬う言葉遣いで、トイレの声掛けはさりげなくする等、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面毎にお一人おひとりの思いや希望を聞いて、自分で決めたり選んだりできるように働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、その方のペースに合わせて過ごして頂けるよう、声掛けをしながら希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服を選んで頂いたり、美容師さんに来て頂いて髪を切ったり、希望に応じてパーマや毛染めに行けるようにする等、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切る、味付け、盛り付け、配膳、食器洗い等、ご入居者の有する力に応じて職員と一緒に準備や食事、片付けをして、食事が楽しみなものになるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の状態に合わせた食事を提供し必要な声かけや介助を行い、栄養面で主治医に相談をしています。夜間も居室に白湯やアクリアスを用意し、水分摂取の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけやご本人の状態に応じた介助を行い、定期的に歯科受診をして点検と掃除を行えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの力や排泄パターンに応じて、トイレの声かけや介助を行っています。ペーパーが取り難い方には1回分ずつ折って用意しておく等、排泄の自立に向けて支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分をきちんと摂って頂き、好んでヨーグルトやヤクルトをとれるようにしています。また運動や歩行を行うことなるべく下剤に頼らないように予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調に応じて入浴の回数を調節したり、夏場は入浴日以外にも入浴できるようにしています。一人で入浴できる方は声かけで、他の方は出来ないところを介助して個々にそった支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具の調節を行い、眠れない方にはホットミルクを出してお話を聴く等して、安眠の支援を行っています。冬場はホットカーペット、夏場はすだれを使用して快適な環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の使用している薬を理解し、症状の変化に応じて主治医と相談し、薬の調整をして頂いています。錠剤・散剤・苦味等、ご本人の意向に応じて主治医に相談し、きちんと服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好みや生活歴に応じて炊事や生け花、裁縫、唄や踊り、詩吟、カラオケ、散歩やドライブ等の役割や気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日はホーム周辺の散歩に出掛けています。ぶどう狩りや紅葉狩り等季節ごとのドライブや外出に行ったり、ご家族の協力を得て墓参りやお寺参り、好きな物を食べに行ったり、買い物等に出かけられるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの希望や力に応じてお金を使えるように、買い物時の支払いを自分でして頂く等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置しており、家族や大切な人に電話をかけたい時にかけられるよう必要な支援を行っています。毎年年賀状を書ける方には書いて頂くよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿計を設置してご入居者が快適に過ごせるよう調節し、季節感が感じられるように季節の花や歌詞を飾ったり、七夕やお雛様、鯉のぼり等の季節の飾りつけをして、居心地良く過ごして頂けるよう支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でテレビを観たり他の入居者の方と談話したり、玄関先のベンチで外を眺めたりして、思い思いに過ごして頂けるような居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、居室の家具や寝具は使い慣れたものを置いて頂き、仏壇等も希望により置かれてお参りされています。ご家族の写真を貼る等、居心地良く過ごせるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下に手すりを設置し、通路は歩行に妨げの無いよう整備しています。「便所」の表示や居室の表札等、分かりやすく、自立した生活が送れるように支援しています。		